竹の曲【たけのはやし】

開催場所	**太宰府市宰府 4 丁目 7 番 1 号 太宰府天満宮**
開催日	**9 月 22 日・9 月 23 日・10 月 5 日**
指定	**福岡県指定無形文化財**

【芸能の概要】

太宰府天満宮の神幸式に、田楽の一座が奉仕するようになったのが竹の曲の始まりとされる。竹の曲は「六座」と称する人々によって受け継がれ、今日に至っている。神幸式の行列では、御神輿（ごしんよ）の前で道楽を奏しながらお供をしたり、神前で奉納されるささらの舞や扇の舞のおりに、謡と共に奏される。

【芸能の特徴】

竹の曲（たけのはやし）は、六座と称する家々の子孫のみが受け継ぎ今日に至っている。六座とは、その昔の米屋座、鋳物屋座、鍛冶屋座、染物屋座、細物屋座、相物座屋の事を指し、今の商工業者の組合のようなものであった。神社仏閣のあらゆる祭礼には必ず市場を開き、その市が繁栄するよう、六座の頭が子孫に田楽の能を教え舞わせていたのを、1101（康和 3）年より始められた太宰府天満宮の神幸式に奉仕されるようになったのが、竹の曲の起りとされる。

文献には、1189（文治 5）年 8 月に鎌倉の二階堂の鐘供養にも奉納したという記録が残っている。江戸時代までは、太宰府天満宮だけではなく他の寺などで舞うこともあった。楽器は明治維新前までは笙もあった。昔は仕舞に能面を使用していたと伝わり、現在も南北朝期～室町期当時の能面 5 面が保存されている。

【使用する祭具・道具など】

稚児が奏する「ささら」は、分厚い竹を長さ 6 寸に切り、5 分巾に割ったものを 50 本、上端を麻紐で結び連ねたもので、数百年前より使われている。締め太鼓の胴の内面には「文禄元年(1592)修繕仕候者也」との記録があり、室町時代または鎌倉時代に新調されたものと考えられている。横笛も以前は奏者自身が竹を削り、工夫を凝らして自作していたという。

・アクセス

西鉄太宰府駅より徒歩 5 分

・周辺の観光

宝満山、大宰府政庁跡、九州歴史資料館、岩屋城跡
鬼すべ（1 月）
曲水の宴（3 月）
太宰府市民まつり（8 月）
太宰府ふれあいフェスタ（11 月）

・近くの特産品

梅製品、梅ヶ枝餅、木うそ